

第3回新潟市ブックスタート推進委員会会議録

日 時：平成23年1月27日（木）午後1時30分から

場 所：中央図書館3階 ビーンズホール

次 第

1 開 会

2 教育次長挨拶

3 議 事

(1) 各区事業実施計画について

各区事業実施計画（案）

各会場別の状況

各区実行委員会開催状況

(2) ブックスタートボランティアについて

(3) 広報について（案）

対象者向け広報

市民向け広報

(4) 関連事業等について

股関節検診時

乳幼児を連れた保護者の図書館利用促進に向けて

(5) 事業の評価について

4 その他

5 閉会

出席者

市 民 委 員：神林委員，正道委員，錦委員，渡辺委員，仁多見委員代理川上委員

市役所関係課：保育課木村委員，保健所健康衛生課神戸委員代理安達委員，生涯学習課玉木

委員代理伊藤委員，中央公民館和田委員代理丸山委員，教育次長（中央図書

館担当）八木委員，中央図書館サービス課山下委員

事 務 局：内山企画管理課長，持田企画管理課長補佐，石田サービス課長補佐，

加藤館長（豊栄），三田館長（新津），石口館長（白根），松原館長（西川），

子安係長，中村副主査，小林副主査，白江司書

傍聴者 なし

1 開 会

(司 会)

ただいまから、第3回新潟市ブックスタート推進委員会を開催いたします。

当推進委員会は、市民の皆様にご公開しております。本日、傍聴される方はいらっしゃいませんでした。

開会に先立ちまして、八木教育次長より挨拶を申し上げます。

2 教育次長挨拶

(八木教育次長)

ブックスタート推進委員会については、第1回、第2回と、皆様方から貴重なご意見をいただきまして、実施に向けて着実に準備を進めてまいりました。今日は、準備の状況とあわせて、さらに準備に向けた実施の体制についてご説明し、ご意見、あるいはご要望みたいなものがあればお伺いできればと思います。4月から早速実施ということで、私どもも現場でどういう形になって、どのように動いていくのか、まだ頭の中で整理されていない部分もありますけれども、その辺も含めてご教示いただければ、ありがたいと思っております。

(司 会)

ここからは、新潟市ブックスタート推進委員会設置要綱第4条によりまして、八木教育次長に議長をお願いいたします。

3 議 事

(八木議長)

進行については、(1)と(2)をあわせて、そして(3)以下をあわせて話を進めさせていただきたいと思っております。最初に議事の(1)の「各区事業実施計画について」と(2)の「ブックスタートボランティアについて」を、事務局から説明をさせていただき、ご質疑、ご意見をいただければと思います。

(事務局)

(1)「各区事業実施計画について」、資料1、1-2、1-3により説明。

(2)「ブックスタートボランティアについて」、資料2により説明。

(八木議長)

盛りだくさんのご説明をさせていただきました。資料1、それから資料1に関連した枝番の資料と、資料2のブックスタートボランティアについて、これはほとんど報告ということになりますが、少し分かりにくい部分もあったかと思っております。その辺ご質問でも、ご確認ということでもよろしゅうございますので、忌憚のないところをご発言いただければと思います。

(木村委員)

1点だけ、案内方法というのが多分告知なのだと思うのですが、例えば母子健康手帳に掲載するといった記載があるのですが、教育委員会とか、福祉部関係、衛生部などの子育てに関する情報を網羅した子育て応援パンフレットの「SKIP(スキップ)」という冊子がありますので、告知という部分でいけばやり過ぎということはないわけなので、そこにも掲載されたらどうかという、一つの提案です。

(事務局)

分かりました。検討させていただきたいと思います。

(八木議長)

新潟市で毎年、年度更新して出しています、かなり厚い「SKIP」という子育て支援冊子がありますけれども、そこにも掲載したらというご提案です。

(木村委員)

特に、「SKIP」は転入者みんなに渡します。母子健康手帳は転入してくると新たに市の母子健康手帳は発行しないそうなので、そういう意味では「SKIP」は、多分子供を持っているご家庭はほとんど行き渡っていると思うので。

(八木議長)

こども未来課にお願いしたいと思います。

(渡辺委員)

資料1-3の各区実行委員会開催状況なのですけれども、下のほうに実行委員のメンバーというのがありまして、ボランティア1,2名ということなのですけれども、どのような方たちなのかとか、日程によると昨年の開催日しか書いていないのですけれども、どのように始まっているのかということも含めて教えていただけますか。

(事務局)

実行委員会につきましては、1回目、2回目の推進委員会のときに、実施計画を作っていたために、各区で実行委員会を設けるということでお話しさせていただいたと思いますが、活動といたしましては、10月から12月いっばいで実施計画を作成し、本日開催させていただいている推進委員会でご報告させていただくと。それまでの間1,2回から3回集まっていたということで、進めてまいったところです。メンバーといたしましては、ご登録いただいているボランティアさんの中から、その区で主に活動していただける方ということで、こちらで選ばせていただいております。1名の区もございましたし、例えば私は江南区と東区の事務局を担当させていただいたのですが、江南区でしたらこちらにいらっしゃる神林さんとか、東区は2名の方をお願いしてございます。

(渡辺委員)

大体ボランティアさんからということですね。

(事務局：石田)

はい、そうです。

(八木議長)

その他ございますか。

(正道委員)

確認といたしますか、質問なのですが、資料1の裏側の上から4行目、1歳誕生歯科健診の案内送付時に引換券を同封するというのですが、引換時期は受け取ってから3か月以内に使うようにという指示があったと思います。いつごろ送付されるのでしょうか。

(事務局)

いつごろ送付されるかということですか。

(正道委員)

紛れてしまわないかなとか、引換券を当日忘れてきたときなどに引き替えられないようなことがあるのか。その引換券に名前を書いたりし、必ずこの人に渡したという確認があるのかということですか。

(事務局)

引換券につきましては、各区の役割分担のところでは少しお話をさせていただいたのですが、各区の健康福祉課で、1歳誕生歯科健診のご案内を個別に発送するときに、一緒に入れてもらう。当日、それを持ってきていただくのですが、当日はそれがなくても、一応私どものほうで誕生月をお聞きします。何月生まれですかということをお聞きして、4月生まれですとかおっしゃっていただければ、ご案内をさせていただきます。なければ受けられないという形は、当日につきましては取るつもりはございません。また後で、引換券については詳しく説明させていただきます。

(八木議長)

(3) の広報にまた出てきますので、そこでご説明させていただきます。その他ございますか。ブックスタートのボランティアの数は少し分かりにくいようで恐縮なのですが、お分かりいただけたでしょうか。実人員で255名の方に登録をしていただいたと。2つの区以上できるという方がおいでになるために、延べでいうと318人の方に登録していただいた、結論から言うとそういうことなのです。ただまだ西区ですとか、南区、秋葉区で少し足りないということで、これからもう少し募っていきたいということがございます。よろしいでしょうか。もしよろしければ次に進ませていただきます。

それでは、次の(3)「広報について」、資料3と4、(4)「関連事業等について」、資料の5と6。それから、あわせて(5)については資料がありませんけれども、口頭で説明させていただきます。

(事務局)

(3)「広報について(案)」資料3 - 1・2、資料4 - 1・2により説明。

(事務局)

(4)「関連事業等について」、資料5、6により説明。

(5)「事業の評価について」説明。

(八木議長)

これらをあわせてご質問、ご確認、ご意見がございましたらお願いしたいと思います。

(木村委員)

ブックスタートの絵本引換券とした意図は何なのでしょう。ただ、絵本と特定のものを引き換えるよという手段だけで使うか、あるいは統計を取るために手元に残しておきたいのか、チェックとしてのものなのか。と申しますのは、長年の経験から、こういうチラシ風のものを送っても失くしたり、持ってこなかったりするのです。絶対に失くさないものとか何かをキーにすると、大概そういう窓口でのトラブルというのは起こらないので、例えば私が高齢者福祉課にいたときに、無料入浴券を配っていたのですが、それは高齢者が持ってくる保険証にチェックするのです。保険証というのは失くさない。引換券にすると、必ず窓口でトラブルが起こります。ということで、引換券の意味はそんなにないのであれば、告知だけにしておいて、母子健康手帳というのは失くさないで、せっかく印刷するわけですから、母子健康手帳にチェック項目を設けて、日にちのはんこを押して引き換えとするとか、そういう方法もあるのかなと思いました。

(八木議長)

どうでしょうか。貴重な提案だということで受け止めて、事務局として何かありますか。

(事務局)

事務局といたしましては、引換券には告知の意味もありますし、統計を取りたいということもありました。母子健康手帳にはんこを押す。そういうことも考えたのですけれども、実行委員会ではんこの件を話し合った中で、母子健康手帳を持ってこない方も若干いらっしゃるというお話を聞いたのです。それで、一応引換券は告知の意味、それからこれで統計を取りたいとおっしゃるように、持ってこない方はたくさんいらっしゃると思うのですが、私ども図書館としては、性善説に立ちたいと思っております、持ってこなくても健診に来た方は、先ほど申し上げましたように、一応、生年月日だけは確認させていただきます。特に4、5、6月は、

自分たちの受ける月に受けられなかったりして、翌月、翌々月に来る方がいらっしゃるので、1月生まれの方が来たりするので、何月生まれですかと。トラブルも起きるかもしれないのですけれども、生年月日だけお聞きして、受けていただくと考えております。やはり母子健康手帳というものは自分たちの管轄のものではないという部分もありました。

(木村委員)

健診に来るので、母子健康手帳はほとんど忘れてきません。私も保健所にいましたけれども、チラシを忘れてくるか、母子健康手帳を忘れてくるかどちらかといったら、はるかにチラシを紛失した、特に紛失です。母子健康手帳というのは、たとえ忘れてきたとしても紛失はしませんので、どちらかといったら母子健康手帳のほうがいいのかと。これは参考までに。

もう一つ、気になったのが、健診で配布するパンフレットに、まだイメージという形で、あかちゃんといっしょにお母さんがエプロンをしているのです。性別役割分担というのは、公で出すパンフレットであれば気をつけて、エプロンを取るとか、女性をピンクにするといったことはやめたほうがいいと思います。

(事務局)

私たちが気にしていたのですけれども、エプロンまでうっかりしておりました。参考にさせていただきます。

(正道委員)

先ほど私が引換券のことを聞いたのは、木村さんがおっしゃった、失くして持ってこない可能性があるということをお心配していたのです。健診に行くときは、お母さんは持ち物がとてもたくさんあります。おむつとかミルク。なるべく持ってくるのは少ない方がいいと思いますから、同じような意見だったので補足的に申し上げました。

一つお聞きしたいのは、当日歯科健診に来られなかったときに、下記の図書館でブックスタートを行いますということをお資料3-2の右側に書いてあるのですけれども、この時間だったらいつでも行ってブックスタートが受けられるということなのではないでしょうか。というのは、本と資料を渡すだけなら、いつでもいいと思うのですけれども、ブックスタートの趣旨はそうではなくて、説明して、読み聞かせをして、ある程度専門と言ったら変ですけれども、担当の方がいなければだめといたしますか、やはり役割があると思うのです。資料と本を袋に入れて、はいどうぞということだったらだれでもいいわけなのですけれども、申し込みがいるとかどうかなど、お聞かせください。

(事務局)

私どもは渡すだけにしたくない。ブックスタートを行いますと申しておりますので、この時間帯、この曜日ならいつ来てもらってもブックスタートと同じ読み聞かせをさせていただきます、

意義もお話しさせていただいて、お持ち帰りいただくというように考えております。

(正道委員)

では、全然申し込みなどは必要なく。

(事務局)

ないです。いつでも。

(正道委員)

ブックスタートは先ほどもお話しくださったように、本を渡してそれでおしまいではなくて、そこが始まりでスタートの地点だと思うのです。それから、図書館、あるいはほかの子供も関係するところがどうかかわっていくかとても大事なところだと思うのです。例えば、乳幼児が参加できる「おはなしのじかん」についてということですが、乳幼児は1歳で赤ちゃんではないという線の引き方があるようですが、やはり読み聞かせをやってありますと、ゼロ、1、2歳と3、4、5歳では大違いなのです。2歳と3歳が混じっても何とかやれるけれども、1歳未満からゼロ、1、2、3、4歳とそれ以上では、本の読みかたや選書が全然違って来るわけなのです。このほかにいくつかの館で乳幼児の参加があるからいいというような書き方をしているところがありますが、現在の「おはなしのじかん」に乳幼児の参加もありというようなこと。でも、ボランティアは選書にすごく苦労していると思うのです。3歳児、行動が分かれば精神の発達と行動の発達、市や社会がどうやって広がるか。寝ている布団の周り、屋内、お母さんあるいはお父さん、その関係からもっと社会性が出てくる子供について、選書が全然違って来るわけなので、月に1回でもいいですから、ゼロ、1、2歳児向けの基本的に赤ちゃんというくくりの会を一つは作って欲しいと思います。

それに関連してなのですけれども、先ほど資料6に図書館の利用者に対して、乳幼児の館内での言動に対して理解していただくようにということで、図書館の利用者は本当に大勢の方、いろいろな種類の方がおいでになります。特に新聞を読みにいらっしゃるお年寄りの方とか、雑誌を読んでいらっしゃる方。子供の声がうるさいという苦情は必ず来るのです。走ったり、騒いだりしているのはもってのほかですが、普通に歩いても子供の足というのはクッション性がないものですから、ばたばた音がしてしまうのです。その辺を許容してほしいというような、子供の声はどうしても甲高いです。だから普通にしゃべっていても、耳に触る方がいらっしゃるかもしれない。それも生活ノイズといいますが、人間が生きている上での雑音と言ったら語弊がありますけれども、自然の音だということで許容してほしいということを、もっと図書館でアピールして欲しい。昔の大学の図書館みたいに針1本を落としても「シーツ」と言われるような図書館ではなくなってきている。赤ちゃんから来られる図書館だということをアピールして欲しいです。例えば、月に1回、赤ちゃん、ゼロ、1、2歳向けの読み聞かせのある日、

例えば新津の美術館でやっていますよね。子供の日という、子供が来て大きい声で美術館の中を見てもいい日を設定しているようですが、それみたいに大騒ぎをしないにしても、今日だけは、月に1回だけは赤ちゃんの日で、ほかの方もお許しくださいということで利用してもいいのではないかと思いました。

(事務局)

すぐ全館でということは難しいと思いますが、そのような方向性は持っております。毎年、ボランティアの皆様は次年度の「おはなしのじかん」の活動等を確認しておりますが、その際に担当から、来年度からはできる範囲で乳幼児向けのおはなしのじかんのことも検討いただくということでお願いする方向です。

(八木議長)

今の「おはなしのじかん」についてですね。それから、あわせてもう一点。

(事務局)

生活雑音についてですが、先ほど正道委員がおっしゃったような検討していく中で、そういったような案も出たのですが、それも含めまして、今後検討させていただきたいと思います。

(正道委員)

ぜひ前向きにご検討ください。

(八木議長)

双方、前向きに検討させていただきます。

(錦委員)

ブックスタートのボランティアに登録した人の話を聞いたのですが、歯科健診のときはすぐうるさく、泣く子が多いというのです。その中で自分たちが読み聞かせをやっていけるかどうかという不安があります。私が一番ブックスタートに期待したいのは、保護者がボランティアの人に読み聞かせもしてもらっている我が子を見て反応を示すところです。「うう」とか「あぁ」とか。大体1歳前後くらいになってくると、「もう一回読んで」という要求もするのです。その本が楽しいと。言葉は発しないのですが、「うう」とか「おお」とか「あぁ」とか。そうすると、もう一回読んで欲しいのだなと思って、もう一回読んであげると、とても満足するという反応を保護者に確認してもらいたいのです。多分非常にうるさいと思うのです。うるさい中で、ブックスタートをするというときに、何かもう一つ工夫とか、案がないだろうかと思いましたが、時間の差とか、ブックスタートをしてから歯の健診ということにもいえないと思うのですが、それでは本末転倒になるのでしょうか。それから、ブックスタートの実施場所と歯科健診の実施場所が違うところと同じところがあるのですけれども、何とかならないかしらと思いました。難しいでしょうか。一番心配なのは、果たしてボランティアとして入

って、こちらの思いを受け止めてくれるだろうかという不安があるみたいです。

それから、ボランティアの人たちは、読み聞かせを地域でやっていますが、そうするとあちらから声をかけてもらえるのだそうです。「この間はどうも」とか、それがとてもうれしいと言っていました。それから、何かいろいろなことを聞きたがっているのではないかと。そういうときにどのように答えたらいいだろうかといつも考えているというお話でした。いいアイデアないでしょうか。子供相手ですから、まさかうるさくしないでは言えないです。何かいい方法はないものでしょうか。ブックスタートは親子ともゆったりとした感じで、静かなところに誘って本を読んでやりましょうというキャッチコピーがあるのですが、静かではないわけです。でも、多分我が子の姿を見て感動するお母さん、お父さんもいらっしゃると思うのです。何とかそのところはいいアイデアがないかしらと思って、考えていたのですけれども、どうでしょうか。

(山下委員)

実行委員の皆さんと一緒に、1歳誕生歯科健診の会場を全部回りました。担当の歯科衛生士の方からも「慣れない歯磨きをするので泣く、大丈夫かな」という話だったのですが、皆さんが泣いているわけではなかったです。それから、会場を変えるということなのですが、会場が違うところもございしますが、これは逆に会場が狭くて別の部屋にというところが結構多かったのです。錦委員がおっしゃったように、それでは1歳誕生歯科健診で、歯科健診の前にブックスタートを行えないかということですが、この3回の会で2回目の基本方針のどこでやるかというところで検討した結果を思い出していただきたいと思うのですが、ブックスタートは新潟市に生まれた、新潟市在住のできるだけ大勢の赤ちゃんに手渡したいということで、図書館単独でやるのではなく、健診など、大勢の赤ちゃんが集まる場所でやりたいということで考えました。新潟市の場合、股関節検診と1歳誕生歯科健診がある。それを実施している保健所や各区健康福祉課と協力し合ってやるということになりますので、会場の都合、駐車場の都合ということを考えて、今、考えている方法がベターな選択かなと思っております。4月から実際にやってみまして、そういう錦委員がご心配なさっているようなことがあるのかどうかというのは見ていきたいと思えます。また、全国のブックスタートをやっているところも、例えば東京などでは、公共施設が利用できるもので、駐車場の問題はないまでも、会場は非常に狭くて、待っている廊下で、ソファに座っているところでブックスタートをやっているような例もあります。もしかしたら意外と赤ちゃん、乳幼児は集中力があるかもしれないなとも思っていますが、まずは4月からスタートしてみて、それから事業の検証を行っていきたいと思っております。

(神林委員)

実行委員でボランティアとして参加させていただいたのは、この中で私だけだと思うのですが、1回だけ1番人数の集まる会場で実際に歯科健診のところで委員会を開きました。歯科健診をした後に、歯科衛生士さんと親子で話す時間が皆さんあるのです。だから健診のときに泣いておられた子でも、その後、歯科衛生士さんと話す時間がワンクッションあるので、実際に会場を出るときは、ほとんどの子は泣いている子も泣きやんでいました。だから、その心配はあまりしなくても大丈夫かと思います。

(八木議長)

ありがとうございました。

(伊田委員)

ブックスタートのことについて、母子健康手帳の掲載文、あるいはほかのことについてもブックスタートはこうであるというように、全部同じように書いてあります。そうすると、来年度スタートする際に、ブックスタートといった場合に、イメージがどうかということなのです。これで分かるかどうかということで考えさせてもらいました。まず一番最初に、目に触れるのは、母子健康手帳の掲載文だと思うのです。その際に、資料3 - 1かと思うのですが、2行目のところで、「絵本の読み聞かせとあわせて、お子さん一人ひとりに1冊の絵本をプレゼントするブックスタートを実施する。」これで分かるかどうかなのですが、そこに「ボランティアによる絵本の読み聞かせの体験」と入れてもらえると、絵本の読み聞かせがだれがどうしてということが分かるのかなと思いました。実際に手に取るのが、母子健康手帳ということであれば、そこに記載されている文面、来年度初めてですので、もう少し丁寧にブックスタートについて書いてもいいのかとは思いました。これは毎年のことなので、ブックスタートが定着したら、また文章を変えていくというやり方がいいのかなと思いました。ほかのこともそうやって見た場合に、同じように書かなくてもいいから、記載の表現ではなくてもいいのかと思いましたが、いかがでしょうか。

(八木議長)

ブックスタートの説明文について、もう少し初回といいますか、初年度、しばらくの間は、もう少し具体的なイメージできるような内容を説明文にしたほうがいいのかということですね。

(神林委員)

いろいろブックスタートの説明があるのです、文章が全部違うのです。母子健康手帳の掲載文、ブックスタートのチラシのところとか、似たような文章なのに全部違うのです。

(山下委員)

伊田委員のご指摘は、それぞれものによって文章を変えたほうがいいというご指摘でした。神林委員のご指摘は、文章がみんな違うというご指摘でした。まず、母子健康手帳のほうは、字数等の制限がありまして、ブックスタートの意義とあわせて、実際にどこで何をやるかということを入れたいと思って、このような文章になりました。こちらのほうは母子健康手帳の印刷の締め切りがありまして、案ではなく、今年はこれで行かせていただきたいと思います。

(伊田委員)

一校に間に合うので大丈夫だそうです。

(事務局)

検討させていただきます。ブックスタートのポスター等については、NPOブックスタートからこれでやらなければだめということを言われております。他のものにつきましては、これから検討の余地がございますので、ご意見を基にして、担当者一同で頭を絞りたいと思います。

(木村委員)

今さら文章のことを言って申し訳ないですけども、ブックスタートというのは絵本をプレゼントするのがブックスタートなのですか。違いますよね。母子健康手帳の文章は、読み聞かせとあわせて、絵本をプレゼントするブックスタートを実施します。本来は、ゆとりを持つきっかけとしていただくブックスタートなのです。そのためにプレゼントしますという文章が正しいと思うのですが、この日本語は少しおかしいと思います。

(事務局)

正しい日本語で直させていただきます。まだ二校、三校とあるようですので。

(木村委員)

そのほうが、誤解がないと思います。ブックスタートの意味が誤解されて捉えられると思います。

(八木議長)

分かりました。ポスター、チラシあたりはNPOブックスタートの全国統一版の表現ということもあって、黒井健さんもかかわっていることですので、その辺はこれを採用させていただきたいということですが、特に母子健康手帳については、若干期間的には間に合うということであれば。

(安達委員)

どこまで進んでいるか分かりませんが、まだ一校、二校は来ていないと思いますので、何とかこのスペースで。3点質問させてください。母子健康手帳のところなのですが、文章はいいのですが、先ほど木村課長がおっしゃったように、新潟市に住んでいるときに妊娠

すれば新潟市の母子健康手帳なのですが、若い人は結構転出入が激しいですので、これを見ますと、先ほど「プレゼントします」ということだけ見ると、全国でやっているように受け取られるかなという危惧があります。全国でやっていて、新潟市では1歳の歯科健診でやっていますよというようにも読み取れるので、最初のところに「新潟市では」というフレーズを一つ持ってきていただくか、新潟市の制度ですよということが分かるようなものに、どうせ直すならその辺もついでにお願いしたいと思います。先ほどの親と子というのは直るわけですよ。それが1点、ぜひお願いしたいと思います。

それから、もう一点は、引換券のところですが、3ヵ月の間にとというのは、最初からこういう予定でしたか。健診のご案内が、大体健診日の1ヵ月くらい前に発送しますので、約1ヵ月弱前には本人のところに届きますので、この3ヵ月の間に来られないことも考えられます。そうすると、それを問い合わせるところが書いていないと思うので、お問い合わせは裏の図書館のところとか、何か問い合わせ先を一つ入れていただきたいと思います。スペースが難しいと思うのですが、このことでの問い合わせは、裏の図書館にお願いしますという一言を入れていただければと思いました。

そしてもう一点です。先ほど股関節検診でチラシを受付で配布しますとおっしゃいましたが、先ほど正道先生もおっしゃったように、受付では荷物がいっぱいありまして、これからさて股関節を始めるぞということで、みんながぴりぴりしている部分もありますので、区によってゆったりと対象者が少ないのであれば、それでいいと思いますし、もし別の場面で配布することが可能であれば、股関節検診の中のどこかで配布をお願いというような、少し柔軟性を持たせた形にしていだけたらと思います。

(事務局)

3点ご意見をいただいたのですけれども、母子健康手帳を、「新潟市では」ということを最初に入れたほうがいいのかということ、これから検討させていただきますが、親と子は直さなくていいかなと思ったのですけれども。

(木村委員)

親と子はだめでしょう。

(事務局)

普通はだめなのですけれども、母子健康手帳は親しかもらえないのかなと。代わりに取りに来る人はいても、手元にいくのはお母さんですよ。産むまで持っているし、生まれてもお母さんが持っていますよね。それでここは親と子でいいのかと思ったのですけれども。

(八木議長)

そこは後で、文面については3人からご指摘、ご意見をいただきましたので、母子健康手帳

の掲載文については、再考させていただき、間に合えば修正させていただければありがたいということにさせていただきます。

(事務局)

分かりました。それから、引換券の3ヵ月ですが、一応区切らせていただいたということで、もっと後に来ても受けていただくつもりでいるのですが、何か区切りがないと1年後に来られても用意した絵本がふさわしくなくなるということで、それで3ヵ月にさせていただいたのですが、問い合わせ先については入れさせていただきたいと思っております。それから、股関節検診時のチラシ配布は、その区で最後に何か他のものと一緒に渡していただくとか、区の方にお任せさせていただきたいと思っております。

(八木議長)

よろしいでしょうか。そのほか全体を通して。

(正道委員)

図書館とは関係ないのですけれども、乳幼児向け施設設備についてのところなのですけれども、先回、鳥屋野の公民館で子供向けの本の読み聞かせをしましたら、7ヵ月の赤ちゃんを連れてきたお母さんがいらしたのです。初めてなのですけれどもこの子もいいでしょうかとおいでになって、そのときはベビー向けのプログラムだったので、初めて聞くと思えないようにしっかり聞いてくださってよかったのですけれども、途中、おしものにおいがしてきました、どうしようかなと。最後までお聞きになったのですけれども、この子どうしようといったときに、そのまま抱っこして帰りますとおっしゃったのです。車ですかと言ったら、歩いて15分くらいなのですけれども。そのときに、私も今見ましたら、ベビーシートは、鳥屋野は4個あると書いてあるのですけれども、そのお母さんもベビーシートがあることも知らなかったし、私も知らなかったのです。あるのであれば、ぜひ、それがあということが分かるような表示をしてほしいですし、赤ちゃんにとっても気の毒なことをしたなと思っているのですけれども、このように公民館なのにあっても分からない。例えば、ベビーチェアも中に入れば分かるということもありますけれども、あるかないか入ってみなければ分からない。ベビーシートはどこにあるかということも非常事態の子供を抱えて捜し回るということも大変なことです。ぜひ公民館や図書館など、赤ちゃんが出入りする施設では、これだけの赤ちゃんサービスがありますということが、赤ちゃんを連れてくる人の目に触れるようなことを表示といたしますか、案内してほしいと思いました。

(事務局)

今の正道委員のご意見ですけれども、実は今回、間に合わなかったのですが、チラシ等の図書館の住所等書いてあるところにベビーカーのマーク等を入れていくことを考えました。館内

表示につきましては、今後また相談なのですけれども、そういうメッセージを発信していくということは、当方も考えていたところです。

(八木議長)

よろしいですか。では、ほかに全体を通して何かございますか。

(錦委員)

このブックスタートは来年も再来年もずっと続いていくのでしょうか。今回こっきりでしょうか。もし展望があれば、聞かせていただきたいと思います。

(八木議長)

新潟市としての展望は、もちろん単年度で終わるということは考えておりませんので、当然、半永久的にといいですか、恒久的にやらせていただくと。なるべくなら担当所管としては充実した方向で続けていきたいということでございます。特に「日本一子育てにやさしいまちづくり」ということを標榜しておりますので、その中の一端として、充実させていただければと思っています。

(錦委員)

そのお言葉を聞いて、大変うれしく思います。

(神林委員)

江南区なのですけれども、委員として参加させていただいて、感じたことを一言皆さんにお聞きいただきたいのですが、歯科健診というのは歯科の関係の方たちが立ち上げて、とても大事に育ててきて、赤ちゃんに対してとてもやさしいのです。私たちはそこを横から利用させていただくということなのです。衛生士の方も同席して説明していただいたのですが、そういったことは一言もおっしゃらなかったのですが、とても大切にしている歯科健診だということを皆さんに分かってもらいたいと思っているのです。だから私はボランティアの人たちにもそのことを伝えたいなと思っています。それを皆さん、分かっていたらあればありがたいのですが。

(八木議長)

皆様からたくさんのご意見をいただきました。事務局で持ち帰りまして、検討すべきところは検討させていただきます。特に母子健康手帳の関係の文言、それから引換券のあたりは検討の余地があるのか、引換券に代えての母子健康手帳の押印だとか、そういった方法については、また再度、事務局に持ち帰って検討させていただければと思います。

第1回から今日の第3回までを通して、大変貴重なご意見を皆様から伺いました。横の連絡もいささかなりともできたかなと思っておりますので、また今後も推進委員会としては、今日が最終になりますけれども、4月の実施以降もご協力いただければ、大変ありがたいと思っております。

最後に事務局を代表して、山下委員から発言を一言お願いします。

(山下委員)

ちょうど1年前なのですが、「新潟市子ども読書活動推進計画」の策定をしております、計画の案のパブリックコメントを実施しておりました。その中では、まだ予算化がされておりましたので、ブックスタートの実施を検討していますというような文章だったのです。そういう形で市民の皆様にはパブリックコメントをしたところ、12人18件のご意見やご要望をいただきました。その中で一番多かったのが、ブックスタートについてでした。そのように、市民の皆様からご要望を多くいただいていたブックスタートをいよいよこの4月から実施できることになりました。

一番最初にブックスタートを行いますのはどこかと申しますと、4月4日中央区の東地域保健福祉センターです。伊田委員のところの中央区健康福祉課が担当しているところになります。東地域保健福祉センターは、ほんぽーとのすぐ近くのところになります。そこで、まず第1回目は無事に終えることというのが、私ども事務局担当者の願いといえますか、無事に行わなければいけないと思っております、今、細かな事務的な手続きを進めていたり、ブックスタートボランティアの方たちの養成講座を行う等しております。大丈夫、無事に行われると思っております。この推進委員の皆様には、お忙しい中、本当に貴重なご意見やご助言をいただきましたことに、本当に感謝申し上げます。八木次長も申しておりましたが、これで終わりではなくて、これからも本当によろしく願いいたしますと申し上げたいと思います。1年後になるかどうか分からないのですが、90.4%の1歳誕生歯科健診が、実はこのくらいブックスタートで増えましたということと、図書館の赤ちゃん連れの方がこのように増えましたということがご報告できるように、がんばっていききたいと思います。

(八木議長)

これで終わらせていただきます。

(司 会)

以上をもちまして、第3回新潟市ブックスタート推進委員会を終了させていただきます。本日は、大変ありがとうございました。